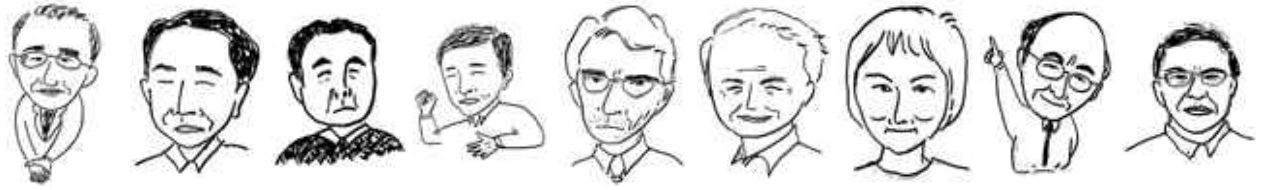


議会だより

No.162 (H30.5.2発行)

平成30年 第1回浦臼町議会定例会 一般質問

第1回定例会は、3月6日から20日までの15日間開催され、6議員から一般質問がありましたので、内容を要約し報告します。



親しまれる議会だよりを目指します。

私の試算では一日16万6,200円となるがこの差は、
③北海道新幹線は年間60億円の赤字だと報道されている。札幌延伸は経営を赤字にさせる要因だ。トンネル維持を含めると更に膨大な赤字になると考えるが。

②年間営業損失3億6,700万円は一日に換算すると約100万円となる。しかし、この差は何か。

一方、営業区間を短縮した場合のコスト試算では、土木構造物維持費用、車両更新費用合わせて7,000万円が計上され、総体赤字4億3,700万円の16%となるが、

①平成28年11月18日付のJR発表の資料では、施設の維持や修理に掛かる費用、1,315は営業係数全体の59%となる。

Q 質問

札沼線の存続を求める

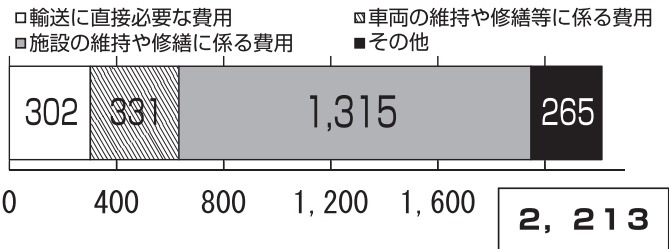


牧島議員

一方、区間を短縮した場合のコスト試算は、今後20年の運行維持に必要な費用の単年度分の数値で、運営赤字とは別に今後必要となる費用であり、営業係数には含まれていない。

①収入を100とした場合の営業係数、2,213に対する施設の維持や、修繕に掛かる費用1,315については、単年度収支に基づく数値となっている。

A 町長答弁



▲図1 札沼線における収入を100とした時の費用の内訳 (JR資料より)

A 町長答弁

③ハンターの高齢化について。④各市町での加工可能な月別の頭数は、将来的には飼育することのことが、異臭対策は。⑤平成31年度にジビエを倍增するとあるが、何トンなのか。

①国・道のバックアップありとはどの部署の誰が発言しているのか。②排水はどこか。また、臭いについては。

Q 質問

ジビエの増加について

29年度の事業実施のまとめが無いなか、振興局・道の性格性に対して怒りを持つ。

②年間営業損失には、「輸送に直接必要な費用」、「車両や施設の維持、修繕等に掛かる費用」、減価償却費その他諸税が含まれ、燃料代や運転手の費用は「輸送に直接必要な費用」に含まれている。③JRの経営努力は更に必要であり、基金の運用益の減少、収支悪化のため安全への投資を怠ったことの悪循環が現在の経営状況だと考える。

環境省、厚生労働省が連携

し、野生鳥獣をジビエとして利用促進し、農業被害を防止するため整備をする。①道エゾシカ対策課課長ほか多くの関係職員に支援いただき1月末にマスタープランを提出し、3月9日に採択の内報があった。

②鶴沼地区の一般廃棄物最終処分場の近接地で計画し、合併処理浄化槽の処理水は最終処分場処理水放流管へ接続する。③60代以上のハンターが50%以上と高齢化は進んでいる状況である。

④近隣市町では、駆除で約200頭、狩猟期で約440頭の実績。収集体制や捕獲方法ハンターの育成等による活用可能な個体数を確保するため、モデル事業を活用しながら、生肉として利用率を高めていく。糞尿による悪臭は想定していない。

⑤国は31年度に2,566トンに倍増する目標としている。町の総合戦略に位置づけた事業であり、新しい産業の創出により、地域経済の活性化に寄与する事業である。



野崎議員

高齢者の砂川市立病院 への乗合タクシーの運 行は

Q 質 問
平成29年第2回定例会で質
問した砂川市立病院への通院
について、内部で検討すると
の答弁だったがその結果は。

A 町長答弁

1 事業者が乗合タクシー事
業を行っている、砂川市立病
院までのコースを運行すると、
他の乗合タクシーや一般タク
シーの運行に支障をきたすう
えに、他地域にも病院があり、
公平性を考慮すると現状は難
しいと考える。

Q 再質問

乗合タクシーの新たなシス
テム作りを考えてはどうか。

Q 町長再答弁

違う方法も含めて再度検討
するが、現状は難しい。

シルバーハウジング事 業のニーズ調査検討の 結果について

Q 質 問
昨年実施したシルバーハウ
ジング事業のニーズ調査の結
果は。高齢者の生活を守るた
めには町に住み続けられるよ
うにしなければならないので
は。

A 町長答弁

アンケート回答者のうち、
シルバーハウジングを必要と
回答した町民は10・1%であ
った。

一方、住み慣れた住宅に住
み続けたいと回答した人は
59・4%という結果から、在
宅支援サービスを充実しつつ、
地域づくりの整備を推進した
いと考えている。

Q 再質問

サービス付き高齢者住宅に
住みたい人もいるが、最後ま
で浦臼町に住んでほしい。

コストを掛けないで便利な
住まいを考えていただきたい。

Q 町長再答弁

他の町村ではシルバーハウ
ジングは多大なコストが掛か
っている。保健センターや地

域で見守りなど、支援するこ
とに力を入れていく。



中山議員

浦臼町子育て支援の町 宣言を

Q 質 問

医療費や通学の補助など、
生まれてから18歳まで約21
0万円の支援に加え、認定こ
ども園の開園に伴い、保育料
の半額補助、0歳児よりすべ
ての園児の給食費無料化を新
たに実施する。

施策を存分に生かすために
も、浦臼町子育て支援宣言を
することで浦臼町への移住に
期待が高まると考えるが。

A 町長答弁

浦臼町子ども・子育て支援
事業計画に基づき、保護者の
負担軽減を図りながら、認定
こども園を開設し支援の充実
に努めており、更に子育て世
代包括支援センター、子育て

支援センターを新設し、支援
の充実に努める。

今後子育て支援策を充実
させながら、移住・定住促進
事業を展開している所管課と
連携を強化していくが、子育
て支援の町宣言は現在は考え
ていない。

Q 再質問

現在の子育てに対する支援
は、守りの要素が強く感じら
れる支援であり、方針転換を
して町外へ子育て支援をアピ
ールしては。

Q 町長再答弁

認定こども園ができたこと
で、様々な効果が表れると思
う。

今後町外への情報の発信を
強くしていかなければいけな
いので、定住・移住を目指し
今後具体策を出すよう検討し
ていく。



町民文化祭の継続につ いて

Q 質 問

人々の心の潤滑油である芸
術、文化の振興は力を注がな
ければならない分野。近年の
町民文化祭は参加団体が減り、
活気がなくなりつつある。

芸能発表に園児や児童が参
加するプログラムがあれば、
地域住民との交流にも繋がり、
文化祭も活気づくのでは。

Q 教育長答弁

子供たちの参加について、
学校現場では限られた授業時
数のなか、小学校は学芸会直
後の文化祭であり、中学校は
学力テストという状況では難
しい。

ただ文化祭は町民挙げて開
催していることなので、部活
動の調整や、学校については
子供たちが参加しやすい環境
整備のお願いをしている。



折坂議員

深刻な有害鳥獣被害に 対する駆除対策を急いで

Q 質問

議会懇話会では、有害鳥獣の駆除対策を望む声が多かった。

ジビエ事業に対する補助金が予算計上されているが、食肉加工よりも農地が荒らされる現状を何とかして欲しいという町民の思いと、有害鳥獣駆除のためにジビエ事業が必要という行政の考え方に乖離がある。

- ① 有害鳥獣に対する電気柵設置などに助成する考えは。
- ② ハンターとして地域おこし協力隊を募集しては。
- ③ ジビエをそちを今後どう事業展開していくのか説明会を開催し、町民に理解を求めることが必要では。

A 産業振興課長答弁

① 電気柵設置の助成は、近隣市町は国の鳥獣被害防止総合対策交付金事業を活用しているが、柵の切れ目からの侵入や線を飛び越えたり、冬期間の一時撤去に費用と手間が掛かるなど、有効性や安全性、

管理性を考慮して、今のところ設置の助成については考えていない。

捕獲体制の強化を図りジビエ事業を推進し、農業被害の低減につなげていきたい。
② 芦別市では協力隊が精力的に取り組んでいる。本町も積極的に募集していきたい。
③ 施設建設予定地の住民には、事業内容を説明する機会を今月中に設けるが、全町民への事業周知は広報等で行う。

Q 再質問

まず浦臼町の被害をどう防止するのか話し合うのが前提では。施設建設による費用対効果がどのくらいか検証を。

事業者の採算ラインである800頭のシカを集められるのか。事業者の撤退もありうるが赤字補填の考えは。野外での内臓摘出を許可するのか。

A 産業振興課長再答弁

捕獲体制は今後この事業と並行して進めていく。
民間企業が営利目的とした事業なので、現時点では赤字補填をする考えはない。
認証をとるために屋外で内臓摘出することは認められない。

地域コミュニティの 存続のために

Q 質問

地域のコミュニティ施設の維持を目的として、地区会館の修繕費用の80%を補助する施策が示されたが、町が建設した3会館以外の町内会所有の3会館も緊急避難所として指定し、大規模改修、解体を町が責任を負うとしては。

その理由は、今後人口減や高齢化で運営さえままならず、老朽化する会館を残り20%とはいえ、大規模改修や解体を自己負担して行う体力が各町内会にあるのか、という考えからである。

コミュニティを維持するための補助金なら、町内会で話し合っ用途を決定できる補助金としてはほしい。自分たちが暮らす地域をどう守っていくかという話し合いを重ねることが大切では。

A 総務課長答弁

緊急避難所の重要性は認識しているが、新たな緊急避難所の指定は考えていない。
町内会交付金やまちづくり活動応援補助金と、自由に使

える交付金の活用も可能である。

Q 再質問

会館の維持管理経費はどの会館も同一にしてほしい。緊急避難所によっては水道やガスも止めている。

会館の修繕、建て替え、解体に住民負担を求めるのはどうなのか。

A 町長答弁

今までの経緯のなかで町としてやるべき部分を検討してこなかったことは反省をしている。今後検討していきたい。

※そのほかに、人口減少対策について質問しています。



町政はあなたのために。

議会を傍聴してみませんか？

- 町議会の定例会は年4回（3・6・9・12月）開きます。
 - 町議会の臨時会は、必要に応じて随時開きます。
 - 手続き不要！名簿に記入するだけで傍聴できます。
- お気軽にお越しください。

平成30年第1回定例会は9名の傍聴がありました。

☆ありがとうございました☆





静山議員

火葬場の広域化

Q 質 問

現在、浦臼町は奈井江町と火葬場の連携事業を行っているが、今後施設及び火葬炉の老朽化に伴う改修、改築が考えられる。

A くらし 応援課長答弁

少子高齢化社会に伴う人口減少の進行や財政規模の縮小、多くの公共施設の維持管理、独自活性化対策など多くの費用が必要となることを鑑みると、持続可能な行政運営のためには、さらなる火葬場の広域化の検討が必要ではないか。

あった。

また、衛生組合からは2町が加入しても対応できるが、その際の負担金は現在より増額となる見込みだと聞いている。

奈井江町の施設利用を第1としながらも、広域化による将来にわたっての住民サービスの維持に努めていくことが、スケールメリットなどの効果も考えられ、両町で今後加入も視野に入れるなど、様々な形の検討を行っていききたい。



柴田議員

行政区再編の必要性

Q 質 問

各町内会の世帯主の平均年齢と災害時の要支援者の人数は。

将来を見据え、検討会議(仮)を創設し協議を進めるべきと考えるが。

A 総務課長答弁

世帯主の平均年齢、避難行

動要支援者の登録者数は図2のとおり。

行政区再編について町内会議で伺ったが、現状として再編を強く望んでいないことがわかった。今後は運営が困難になっている町内会をどう解決するかという視点で検討したい。

町内会	平均年齢(歳)	要支援者登録数(人)	町内会	平均年齢(歳)	要支援者登録数(人)
鶴沼第1	58.7	3	浦臼第5	49.6	1
鶴沼第2	71.2 (65.4)	4	浦臼第6	67.4	0
鶴沼第3	69.9	7	浦臼第7	67.8	6
浦臼第1	69.3	1	浦臼第8	68.6	0
浦臼第2	64.1	3	晩生内第1	70.7	4
浦臼第3	64.8	2	晩生内第2	62.8 (74.2)	2
浦臼第3の2	58.3	3	晩生内第3	70.5	0
浦臼第4	63.0	0			
平均		65.1 (65.5)	合計	36	

▲図2 各町内会の世帯主平均年齢、避難行動要支援者登録者数。
①内は施設入所者、グループホーム入居者を除いた数値

農業再生を考える

Q 質 問

①年代ごとの農地保有面積の実態は。

②将来予測される農業をどう捉えているか。

③新規就農者の受け入れに積極的に取り組む考えは。

④町の要綱に「サポートチーム」が設置されているが、その内容と、今後の展開は。

A 産業振興課長答弁

①平成28年度末の農業者平均年齢は60・7歳、年代ごとの農地保有面積の割合は、20代から30代が8・3%、40代が14・9%、50代が24・6%、60代が36・3%、70代が15%、それ以上で0・9%となる。

②1軒の農家が担う耕作面積がこれまで以上に増加傾向となることが懸念される。

労働力不足の課題を未然に解消するため、ICT・ロボット技術や新しい栽培技術を活用しながら省力化や大規模化に向けた対策を検討する必要がある。

そのため、今年度は新たに若手農業者チャレンジ応援事業や、水田観測センサー導入

支援などの予算を計上している。

③高齢化・担い手不足の対策として、新規就農者の確保、育成が必要と考えるが、主要作物の水稲は多額の就農資金が必要なことや、農地取得の課題がある。

農業法人化を促進し、法人に就農することで、意欲ある有能な担い手を確保する必要があると考える。

④サポートチームは農業次世代人材投資資金経営開始型の新規交付対象者に適切なサポート支援を行うため設置している。

経営の各課題に対応し、指導、相談等を実施して、今後も継続して新規就農者を支えていきたい。



平成30年度 各会計予算

審議された事件と結果

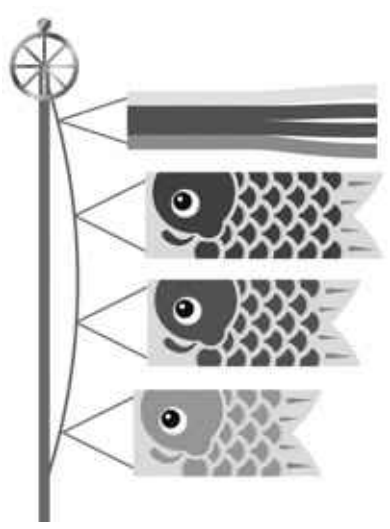
会計名	予算額	前年度比	予算の主なもの
一般会計	33億7500万円	0.0	教育関係 8350万6000円 産業関係 5億4571万4000円 福祉関係 4億8159万4000円 建設関係 4億1760万8000円 生活・防災・まちづくり関係 3億9618万5000円
特別会計	国民健康保険	△ 27.6	国民健康保険分賦金 1億1966万円 市町村事務処理標準システム運用委託料 300万7000円
	後期高齢者医療	△ 4.6	保険料等負担金 3269万1000円
	下水道事業	1.8	石狩川流域下水道事業負担金 169万5000円 石狩川流域下水道組合管理運営負担金 407万6000円 公債費 5914万4000円

◎平成29年度予算の補正されたもの

会計名 (補正番号)	補正後の予算額 (補正額)	補正された主なもの
一般会計 (第8号)	35億6583万6000円 (7234万2000円)	基金積立金 1億974万1000円 ふるさと納税記念品 2200万円 障害者福祉サービス給付費 △1138万3000円 道営農地整備事業(経営体育成型)負担金 2567万円 橋梁長寿命化補修工事 △1104万4000円
特別会計	国民健康保険 (第5号)	2億2167万8000円 (2741万1000円) 財政調整基金積立金 4301万2000円 国民健康保険分賦金 △1261万2000円
	後期高齢者医療 (第3号)	3946万4000円 (△173万6000円) 印刷製本費 △6万7000円 保険料等負担金 △165万2000円
計 下水道事業 (第3号)	7490万7000円 (△22万5000円)	石狩川流域下水道組合管理運営負担金 △30万6000円 長期償還元金 18万円

条例等の審議と結果

- ◆浦臼町企業立地促進条例について —可決—
企業立地を促進し、産業発展と雇用機会の拡大を図るため
- ◆浦臼町長等の給与に関する特例措置条例の一部を改正する条例について —可決—
- ◆浦臼町個人情報保護条例の一部を改正する条例について —可決—
- ◆浦臼町工鉱業振興促進条例の一部を改正する条例について —可決—
- ◆浦臼町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について —可決—
- ◆浦臼町特定教育・保育及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について —可決—
- ◆空知中部広域連合規約の一部を変更する規約について —可決—
- ◎町道路線の変更について —可決—
町道南2丁目線の道路延長を短縮するため
- ◎町道路線の認定について —可決—
旧田宮団地敷地内通路を町道として一体的に管理するため



議会の活動状況がインターネットでもわかります

定例会・臨時会の議決結果、一般質問通告、会議録を公開しています。



←公式HPでこのマークを見つけて下さい。

(<http://www.town.urausu.hokkaido.jp>)

予算審査特別委員会報告

平成30年予算審査特別委員会に付託された議案6件を慎重に審議した結果、全て原案可決すべきものと決定した。今年度予算は前年並みの33億7,500万円となっている。本年度、認定こども園の開園に伴う給食費の完全無料化、国の新規モデル事業となったジビエdeそらちの事業展開が加速する。また、ライスターミナルの自動倉庫更新など、新規事業が幅広く盛り込まれ、確実な成果を期待するものである。

○ジビエdeそらちについて

- ・ 時間のなかで判断を必要とされたが、国のモデル事業として採択された以上、役員間で情報を共有、連携しながら慎重に事業を推進された。
- ・ 農業者の大きな要望である有害鳥獣対策を確立していた。
- ・ 施設対象地域に対して話し合いがない中で進んでいるため、事業の周知や、住民説明会を開催すること。

(中川委員長)

常任委員会報告

総務常任委員会

〔調査日 1月18日〕

『晩生内ワークセンターの現状について』

社会福祉法人豊寿会は、平成16年に多機能型作業所として旧晩生内小学校校舎を利用して開設し、現在は2事業で44名の入所があり、世話人を含め32名の職員で運営されている。

支援サービスは、就労継続支援B型事業所「ピンネ」、生活介護事業所「ノンノ」での作業提供を中心に、農産加工をはじめ、リサイクル自転車、車の修理・販売等を行っている。また、農作業の派遣などを行っている。

農林建設常任委員会

〔調査日 1月17日〕

『うらっす友だちマラニックの検証』

浦臼町全体での町内農産物のPRと、町外の参加者と農業後継者との交流を目的とした、マラソンとピクニックを併せ持ったマラニックが平成28年・29年と2年続けて開催された。

第1回目は137名、第2回目は197名が参加。この事業に対する参加者の期待度の高さが伺えた。29年度のマラニックでは、コース距離、トイレ対策、参加者の分散化など、諸問題点が改善され十分な対策がされていた。

マラニック終了後には交流会を開催し、2回目は120名が参加して盛り上がりを見せた。今後の実施に向けて、より浦臼の産業や農協青年部との交流など、PRの工夫をすることが望ましいと考える。

議会の流れ

◎議会運営委員会

2月15日
・ 町内会との議会懇話会のみとめ

2月27日、3月9日

・ 第1回定例会の運営について

4月6日

・ 道内政務調査について

◎全員協議会

2月8日、2月14日、3月13日

・ ジビエdeウラウスについて

2月23日

・ 新年度予算について

3月6日・20日

・ 第1回定例会について

5月1日

・ ジビエdeそらちについて

◎議員懇談会

2月8日、21日

・ 町内会との議会懇話会のみとめ

◎議会広報特別委員会

4月13日

・ 議会だより第162号編集

委員長	柴田 典男
副委員長	中川 清美
委員	折坂 美鈴
	野崎 敬恭